

### 電子機器時代（昭和四十一年）

大手各社とも設備が進み、集積回路などが各種発表された。秋葉原には近代的な高層ビルが建ち並び、本格的な電気の街と化した時期でした。

### ICによる電子機器の波（昭和四十六年）

設備投資による効果で、電子計算機・卓上型電子計算機・ボタン電話などが大きく伸び、秋葉原の商社もこれに注目し始めた時代でした。

### 日本国内材料不足（昭和四十八年）

オイルショックなどの影響で、建設業界は大きな痛みを受けました。円の固定相場（一ドル三百六十円）時代が終わりを告げ、以降円高時代を迎え、日本の経済が力をつけていった時期です。

### 家電時代の秋葉原（昭和五十九年～六十一年）

三種の神器が地方へ回遊し、新大型店舗へと変化した時期です。



日通ビル屋上から末広町方面を望む

### パソコン専門店の時代へ（昭和六十一年）

時代は重・厚・長・大・から軽・薄・短・小となり、市場の変化に伴い、秋葉原はヤングで賑わう街へと変貌を遂げました。

日本の経済の行く先に不透明が漂うなか、新しい技術革新での内需効果が、ゆっくりりと成長していきました。

### バブル経済の幕開け（昭和六十三年）

時代も平成と変わりましたが、日本経済の平成不況は、この頃からゆっくりりと始まっていたと思われまます。

### パソコン街となった秋葉原の構造変化

（平成六年頃）

戦中・戦後を通して、第I期を電気パーツ時代、第II期を家電時代と捉えるなら、このパソコンを中心としたIC機器時代の到来が、第III期と言えるでしょう。



聖橋より秋葉原を望む